

青年部通信

事務局 小野 朋宣



先月号では青年部員らが健康診断を行ったことを報告しましたが、その後本所フルーツステーションにて新型フリートレー式選果機の視察も行われた。

部員らは以前から選果機がどのように変わったのか気になっていたことからこの機会を設けた。

まずは選果場を二階から見渡して光センサーの位置やトレーの動きなどをみて「とても入り組んでいるけど動きが素早くて性能が良い事が感じられる。」と楽しく見まわっていた。また、光センサーを通るリンゴの情報がモニターに映し出され、大きさや形、糖度などが見ることができ、それを見た部員らは「色や形が多少悪いものでも糖度が高いものが思っていたよりも多い。」と部員らは真剣な眼差しで話していた。

次に部員らが注目したのは、「自動箱詰め装置」であり、全員が食いついて見ていた。「これがあれば従業員が足りない時でもカバー



映し出された数値について話し合う部員ら



選果手順などを確認する

することが出来る」「人間が見ていなくても自動でリンゴが傷つくことなく箱詰めできている。」など省力化に目を向けた意見が多数出ていた。



機械による素早い作業に感動する部員ら

最後に部員から等級別のリンゴを見たいとの希望から、リンゴ詰め作業場へ向かった。生産者でもある部員らはこれから選果などを行行つ際の目安を知ろうと色の入り具合、形、果面の状態などを話



等級別のリンゴに興味深々の部員ら

し合いながら視察を行った。また、丁度海外向けのものなども箱詰め作業をしており「こつこつ状態のリンゴが海外へ向けて箱詰めされているんだ。」と確認していた。それぞれ生産者によって選果の基準が多少違う事から、箱詰め作業中の従業員にも質問している部員もいた。視察を終了した部員らは「身近な選果場ではあったが、こつこつ見ることができ、今まで大雑把に理解していた選果基準だが、上実、クズなどの基準をしっかり確認することが出来て良かった。」と、満足した表情を見せていた。